

人をたすけるゆう気

小 二

わたしは、やき肉やさんでごはんを食べていました。デザートをとるところで、こまっっている、目のふじゆうそうな女の子がいました。わたしは、やさいをとるところでその女の子を見ていました。はじめは、どうすればいいのかわからなかったけれど、わたしはゆう気をもつて、

「だいじょうぶ。何がとりたい

の。」

と聞いてみました。すると女の子はわらって、

「これがほしいの。とってくれる。」

と言ったので、わたしはえ顔で、「はい、どうぞ。」

と、女の子がとりたかったデザートをわたししました。女の子は、「お姉ちゃんありがとう。また、たすけてね。バイバイ。」と言って、え顔でお母さんのところへもどって行きました。わたしはすっきりした気もちになりました。目のふじゆうそう

な子は、よろこんでくれました。中にしていきたいです。

よの中にはいろいろな人がいます。目の見えない人、耳の聞こえない人、手足のふじゆうな人、車いすの人、みんなだいいじゃないのちをもっています。ゆう気をもつてたすけると、たすけた人もたすけられた人もみんながしあわせな気もちになります。わたしは、こまっている人を見つけたら、ゆう気をもつてたすけられる、やさしくて思いやりのある大人になりたいです。そして、もっとみんながえ顔になれるあたたかいよの